

スーサ出土イスラーム陶器の岩石学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2935

「スーサ出土イスラーム陶器の岩石学的研究」

西森 正晃

アッバース朝期のイスラーム陶器は発展段階であるが、不明瞭な点が多い。本稿ではイラン南西部のスーサとペルシャ湾岸沿いに位置するシーラーフ採集のイスラーム陶器の胎土分析を行い、両都市における陶器生産、需要の違いを明らかにするものである。分析手法として、偏光顕微鏡観察と、胎土中に含まる鉱物粒子の大きさに注目した。さらに、粒子の長径に基づいて粒度分析を行い、分布状況に基づいて細粒子型から粗粒子型まで5種類に分類した。その結果、スーサの陶器は細粒子型が半数以上を占める「淘汰された」粘土を使用した上質品が多い一方で、シーラーフの陶器は粗粒子型や大小様々な粒子が入り乱れた「淘汰されていない」粘土を使用した、やや質が悪い製品が多いことが判明した。陶器の種類別に見ると、青緑釉陶器では両都市に器種の違いが見られた。白陶釉器では質の違いが見られ、両都市で陶器生産が存在する可能性を指摘することができた。



青緑釉貼付文三耳壺